

後藤文庫目錄

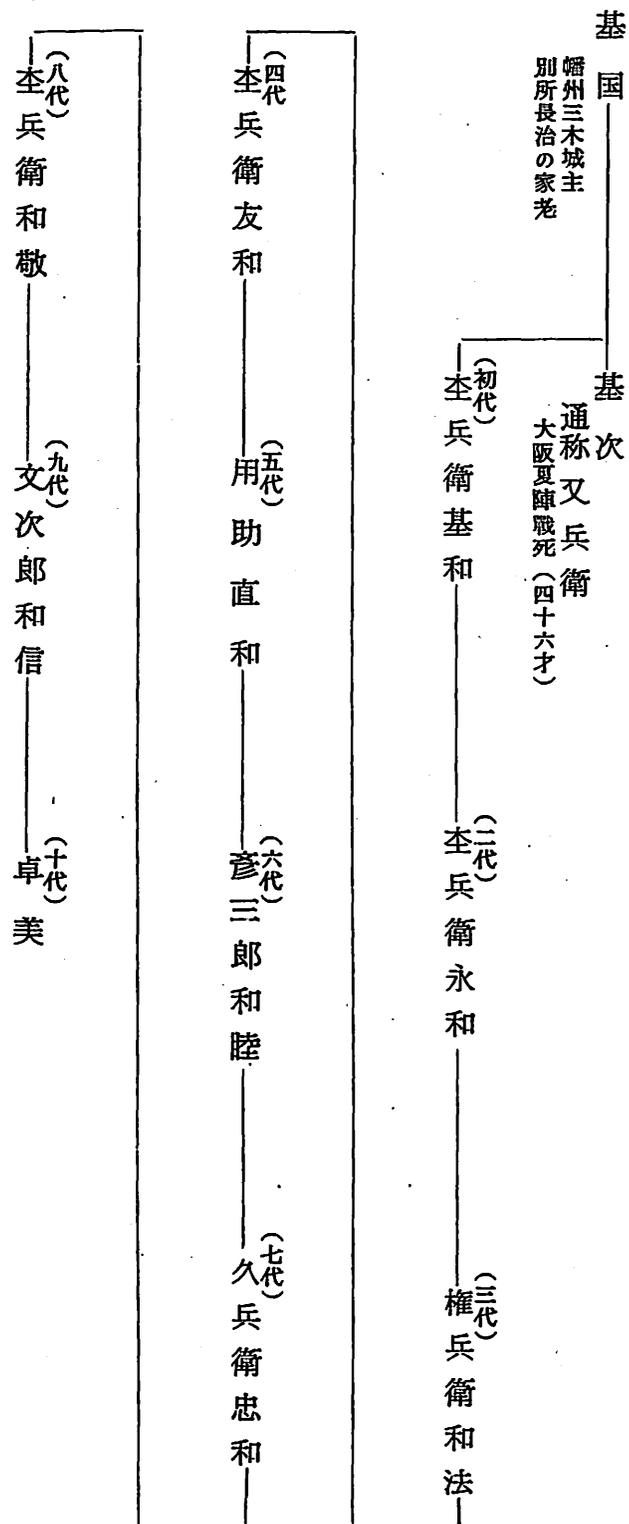
金沢市立図書館

## はしがき

金沢城は、東西六町十五間、南北六町八間、総面積は九万一千六百三十坪で、本丸・東の丸・薪の丸・玉泉院丸・二の丸・北の丸・藤右衛門丸・鶴の丸・三の丸・新丸に分れ、各丸には大小の別はあるが、石塁を以て区別せられている。この石塁に用いた石は、全部が郊外戸室山産のもので、淡い青と赤の二種、青戸室石・赤戸室石と称えられている。

戸室石は加賀藩が厳重な保護を加えたもので、これが使用は藩許を得ない限り用いることができなかつた。この戸室石のみを用いて築城された金沢城は、わが国築城史上の異彩であることは否めない。後藤氏は歴代この石工技術を以て加賀藩主に仕えた穴生方あなうかたである。このたび同家相伝の秘籍文献の総べてが弊館に收藏され、金沢城築塁の偉大な技術を探求して得られなかつた学界に、公開される運びとなつたことを喜びたい。

後藤氏系図



## 後藤氏歴代由緒



初代 李兵衛 基和

彦八と称へ、兄又兵衛基次から築壘の秘伝を受けた、加賀藩祖前田利家に召出されて御母衣役となつたが、幸姫(利家の娘 春柱院)が篠原出羽守へ御輿入の時随従し、慶長四年には二代利長の命により、正式に篠原の家臣となり、米百俵を受けた。

元和八年三代藩主利常の命により、篠原家から召返され、名を李兵衛と改め、知行七拾石、組外組、穴生役を仰せつかり、御石垣御用を勤めたが、寛永十三年十一月に病死した。

二代 李兵衛 永和

父の後を継ぎ、組外組、穴生役を勤めたが、寛永十七年利常に従つて小松へ移つた、明暦三年江戸城修補の時、派遣されて、同城天主台御石垣御用を勤めて特技を顕はしたが、完成して帰途病を出し、万治二年二月死亡した。

三代 権兵衛 和法

万治二年八月跡目相続、切米式拾九俵を受け、寛文五年三月式拾俵加増して四拾九俵となつた、金沢城中御石垣、小松城御石垣、能州石動山石垣、越中所々橋台並川除方御用、江州大津・海津御旅屋石垣、御露路御用等を勤め、天和二年には小松城普請の幕府進達絵図を調製した、その後病身となり、宝永三年十一月死去。

四代 李兵衛 友和

宝永四年七月幼少であつたが、特に切米四拾俵を受けて相続し、享保十二年十一月に拾俵を加増されて五拾俵となつた、明和元年に勤続五十八年を賞せられたが、その間城中御石垣御用と浅野川橋台石垣構築両度の御用を勤めている、同年二月老齡の故を以て特に子息用助に代役を仰付けられた、明和元年八月死亡。

五代 用 助 直和

享保十九年二月御城中御石垣御用見習、明和元年父の代役、同年閏十二月跡目を相続して御石垣御用を勤めた、安永二年戸室山から石切出御用を命ぜられ、同五年に戸室山の仮小屋え詰め、同七年御石引出御用を仰付けられ、戸室山道の内新保村領等難所の道路を山手え附替をなし、道奉行に山奉行を兼帯した、天明五年十二月には五十年勤続の褒美として、養子彦三郎を召出し切米三拾俵、穴生役を仰付けられた、享保十九年には六拾ヶ年勤続、寛政五年正月老衰死亡した。

六代 彦三郎 和睦

定番御歩栗山与太夫の二男、安永七年養子となり、天明四年御城中御石垣御用見習、同五年九月本役となり、父死後相続して切米五十俵を受けた、寛政十一年地震により破損した城内石垣絵図を調製幕府へ提出し、戸室山御石切の道奉行に山奉行を兼帯、同十二年には定御普請役となつた。

寛政十一年の地震以降文化八年までの修築工事には昼夜兼行で勤務に精勵し、功を重ね、賞せられること数度のほり、特に文化五年二之丸御殿焼失による普請完成の時は、殿様から御上下を拝領、同十二年より城内高石垣普請に際しては、足代・棧橋の仕法に特別の工夫を加へたため拾俵を加増せられた、天明四年から文化十四年までの普請は大小七拾ヶヶ所、坪数で凡そ三千四百坪余、御作事所手合、土居崩所、割場手合、御掃除等合計四拾参ヶ所

戸室山御石割御用は天明四年より文政元年まで三十一ヶ年に亘り、同山より城への石引出御用は右年限の内十三ヶ年、天明四年より文政二年まで都合三十六ヶ年となる、文政三年二月二十二日、二之丸御殿へ召され、特に八拾石を受け、同二年四月より竹沢御殿の石垣御用を勤め、同五年十一月完成までに数度白銀を賞賜せられた。

文政八年十二月廿五日式拾石を加増されて百石となつたが、同十一年一月五日病歿した、その著金城深秘録四巻は文政八年の筆で、久しきに亘り城内に奉仕して得た知識の集大成したもので、金沢城又は城廓研究の好資料である。

七代 久兵衛 忠保

初名は丈祐、小松御馬廻御番頭支配岡部佐右衛門の四男、文政六年十二月養子となつた、同七年四月御城中御石垣井戸室山御石切出等御用見習、文政十一年七月遺知百石を相続し、天保元年六月戸室山奉行、道奉行を兼ねたが安政三年八月二十二日病死した。

八代 奎兵衛 和敬

弘化二年御城中御石垣、戸室山石切出等御用見習、嘉永四年十二月召出されて切米三拾俵、同六年五月戸室山奉行、道奉行を兼帯した、安政二年二月地震のため幕府へ提出の絵図調製、同三年十二月跡目相続して百石拝領、同六年高岡繁久寺の廟所御灯籠を修覆、文久二年小松城御本丸御石垣修覆御用、慶応三年金谷御殿御普請御用主附を命ぜられ、同年三月十六日定番御歩並次列となつた、同年八月病死。

九代 文次郎 和信

石川県警察官、金沢市書記を歴任し、昭和三年六月二十一日死亡（六十七才）

十代 卓美

一富士産業研究所に勤務、郊外浅川村下田上居住。

(昭和三十三年一月五日松本調)

# 後藤文庫目錄

書名	著者又は筆者	冊数	分類番号
先祖由緒一類附帳 (文政五)	後藤彦三郎筆	一冊	特九・九一
先祖由緒一類附帳 (文政二)	後藤久兵衛筆	一冊	特九・九二
先祖由緒一類附帳 (慶応三)	後藤全兵衛筆	一冊	特九・九三
先祖由緒並跡々勤方等之覺 (宝永三)	後藤権兵衛筆	一通	特九・九四
先祖由緒書	後藤彦三郎筆	一冊	特九・九五
前田利常知行書 (元和八)	後藤全兵衛宛	一冊	特九・九六
知行書目録 (元和九)	後藤全兵衛宛	一冊	特九・九七
前田利常知行書 (寛永一三)	後藤全兵衛宛	一冊	特九・九八
篠原出羽守知行書 (慶長四)	後藤彦八宛	一冊	特九・九九
前田齊泰知行書 (文政九)	後藤徹丞宛	一冊	特九・一〇〇
前田齊泰知行書 (弘化二)	後藤八十吉宛	一冊	特九・一〇一

T19-1

加	增	之	達	後藤權兵衛宛	一通	特九・九三
知	行	引	足之達	(享保一二) 後藤全兵衛宛	一〃	特九・九三
知	行	假	所附	(安政四) 後藤全兵衛宛	一〃	特九・九四
收	納	帳		(安政三) 後藤彦之丞筆	二册	特九・九五
後	藤	彦	三郎書狀	(文化一)	一通	特九・九六
今	川	榮	作書狀	後藤久兵衛宛	三〃	特九・九七
嶺	牧	之	助書狀	後藤久兵衛宛	一〃	特九・九八
松	島	源	次平書狀	後藤久兵衛宛	一〃	特九・九九
松	島	信	由書狀	後藤久兵衛宛	一〃	特九・一〇〇
聳	養	子	願	後藤用助筆	一〃	特九・一〇二
緣	組	願		後藤用助筆	一〃	特九・一〇三
緣	組	願		後藤小十郎筆	一〃	特九・一〇三
緣	組	届		後藤彦三郎筆	一〃	特九・一〇四



加 增 之 達 後藤彦三郎宛

召 抱 之 達 (寛政二二) 後藤小十郎宛

戸室山道奉行山奉行兼帶之達 後藤彦之丞宛

後藤誠之名字叙 (文化一〇) 津田鳳郷筆

聳 養 子 許 可 書 後藤彦三郎宛

同 後藤用助宛

御宛行穴生仰付之達 後藤彦三郎宛

請 地 許 可 書 後藤彦三郎宛

居 屋 敷 拜 領 書 後藤彦三郎宛

代 役 願 後藤全兵衛筆

請 書 後藤彦三郎筆

相 續 願 (宝永二) 後藤権兵衛筆

御加増等之記録 後藤彦三郎筆

一通 特九・九三

一〃 特九・九三

一〃 特九・九四

一〃 特九・九四

一〃 特九・九四

一〃 特九・九四

一〃 特九・九四

二〃 特九・九四

一〃 特九・九四

廿一 特九・九四

一〃 特九・九四

一〃 特九・九四

一册 特九・九五

遺	書	(寶曆一四)	後藤全兵衛筆	一通	特九・九五
遺	書	(安政三、一三)	後藤久兵衛筆	三	特九・九五
遺	書	(享和二、文化九)	後藤彦三郎筆	八	特九・九五
遺	書	(天保九)	後藤久兵衛筆	三	特九・九五
遺	書	(寬政五)	後藤用助筆	二	特九・九五
後藤全兵衛和敬判印鑑届	(明治二)	一枚	特九・九五		
給祿證書寫等	(明治三)	四枚	特九・九五		
後藤和敬宛					
公債證書御檢印指留願	(明治一七)	一綴	特九・九五		
後藤和敬筆					
改名願	(明治一七)	一綴	特九・九五		
後藤文次郎筆					
御城等之辨	(稿本)	一冊	特九・九六		
後藤彦三郎著					
落葉集	(稿本)	一	特九・九六		
後藤彦三郎著					
文祿年中以來等之舊記	(稿本)	一	特九・九六		
後藤彦三郎著					

御城内等秘抄 (稿本)

後藤彦三郎著

一册

特九・九三

勤方帳 (弘化四)

写本

特九・九四

金澤城石疊圖

後藤久兵衛筆

一枚

特九・九五

金澤城中御右垣間敷附繪圖

写本

特九・九六

金澤城石垣破損繪圖

一册

特九・九七

金澤城手配之圖

後藤彦三郎筆

一册

特九・九八

金澤城精密圖

後藤彦三郎筆

一册

特九・九九

金澤城之圖(樓門櫓明細)

写本

特九・一〇〇

竹澤御殿之圖

一册

特九・一〇一

金澤之圖 (文政年間)

一册

特九・一〇二

金澤類焼箇所之圖

一册

特九・一〇三

金澤城之圖 (寛文二)

一册

特九・一〇四

金澤城二之丸御殿之圖

一册

特九・一〇五

T19-1 T19-1

金澤之圖

御城内え御城外より船を入候儀云々(文化二四)後藤彦三郎筆

写一枚

特九・九六

特九・九七

金城靈澤御碑石寸法書 (弘化三)

写三枚

特九・九六

檢使方格帳 (寛政六)

一册

特九・九六

御用辨伺御機嫌紙面等判印之留

一册

特九・九六

頭書を以伺候品々

一册

特九・九六

御城中出入御定

一册

特九・九六

記録留 (文政二)

一册

特九・九六

御觸留拔書 (寛政二—文化七)

一册

特九・九六

御舊臣斷絶之調

一册

特九・九六

御當代御家中知行高調理(安政五)

一册

特九・九六

高<sup>山</sup>金澤城地形圖

一册

特九・九六

金澤近郊之圖

一册

特九・九六

T19-5

↓

T19-2 T19-2

T19-1

金城深秘錄

後藤彦三郎著

刊一册

特九・九六

⑤ 城石垣始秘傳抄 (寛永一〇)

後藤奎兵衛筆

一卷

特九・九七

⑥ 新積地形准繩極秘抄 (寛永一〇)

後藤奎兵衛筆

二

特九・九八

⑦ 石垣積方秘傳書 (寛永一〇)

後藤奎兵衛筆

一

特九・九九

新に石垣築繩張極意之事(宝永二)

後藤奎兵衛筆

一

特九・一〇〇

辰巳御櫓下御石垣矩方等取樣繩張之事(宝永二)後藤奎兵衛筆

一

特九・一〇一

唯子一人傳 (稿本)

後藤彦三郎著

五册

特九・一〇二

唯子一人傳 (文政七)(稿本)

後藤彦三郎著

一

特九・一〇三

古傳書 (稿本)

後藤彦三郎著

一

特九・一〇四

高石垣繩張一卷 (稿本)

後藤彦三郎著

一

特九・一〇五

✓ 御城中御建物御燒失舊新記錄 (稿本)

後藤彦三郎著

一

特九・一〇六

御城高石垣之事等 (稿本)

後藤彦三郎著

一

特九・一〇七

家藝之事 (寛永三)	寫一通	特九・九二〇
家業之書 (文化一)	一〃	特九・九二〇
家業之書 附 (文化一)	一〃	特九・九二〇
新積地形准繩極秘傳抄繪圖	寫一枚	特九・九二四
橋爪二之御門下舗石貳拾分一之圖	一〃	特九・九二五
四拾間御長屋臺同續御櫓臺指圖繪圖	一〃	特九・九二六
鼠多御門續御櫓臺御石垣規合矩方繪圖	一〃	特九・九二七
橋爪一之御門臺並御櫓臺御石垣積直指圖繪圖	一〃	特九・九二八
橋爪御櫓臺御石垣積直出來曲尺合等之控繪圖	一〃	特九・九二九
石川御櫓下等御石垣積直繪圖 (文化三)	一〃	特九・九三〇
石川御櫓下等御石垣積直繪圖 (文化三)	後藤小十郎筆	特九・九三一
松坂御門續御櫓臺御石垣出來指圖繪圖	寫一〃	特九・九三二
切合石垣積様にて丈夫不丈夫之事	一〃	特九・九三三

湖水縁に石垣築様之次第(文化一四)	後藤彦三郎筆	一枚	特一九・九二四
石垣東南角根水之圖(享和一)		写一	特一九・九二五
二之丸雁木坂横切合御石垣繩張之事(文化一四)	後藤彦三郎筆	一	特一九・九二六
橋爪御門御櫓臺下石積之圖(文化五)	後藤彦三郎筆	一	特一九・九二七
門臺等石垣積上り半に寸延云々	後藤彦三郎筆	一	特一九・九二八
規合矩方繪圖(宝永二)	後藤奎兵衛筆	一通	特一九・九二九
勤方之覺(宝曆九)	後藤奎兵衛筆	一	特一九・九三〇
崩石垣繩張深秘圖(文政七)	後藤彦三郎筆	廿 <sup>四</sup> 枚	特一九・九三一
高さにて矩方を知る法之事(文政七)	後藤彦三郎筆	一	特一九・九三三
山道にても砂地に石垣築様圖(文政七)	後藤彦三郎筆	一	特一九・九三三
角一方の規合矩方圖(文政七)	後藤彦三郎筆	二	特一九・九三四
湖水縁に石垣築様秘圖(文政七)	後藤彦三郎筆	三	特一九・九三五
新に石垣築様繩張規合矩方秘法繪圖(文政七)	後藤彦三郎筆	三	特一九・九三六

砂濱に城を築は損失之事 (文化一四) 後藤彦三郎筆 一通 特九・九二七

石垣に規合三様之事 (文化二三) 後藤彦三郎筆 一〃 特九・九二八

蓮池御露路御門等石垣積直圖 (文政五) 後藤彦三郎筆 一〃 特九・九二九

水見不用大曲尺までにて正を見様 写一〃 特九・九三〇

半鶴半合之積方圖 一〃 特九・九三一

規合矩方之事 一〃<sup>三</sup> 特九・九三三

櫓臺長屋臺等曲尺善惡之事 一〃 特九・九三三

御用地御長屋向土堀下龜甲くずし半切合積之圖 一〃 特九・九三三

矩方右左を知る繪圖 一〃 特九・九三五

控土臺之圖 一〃 後藤彦三郎筆 特九・九三六

學校御門内御用地境川石垣積圖 写一〃 特九・九三七

野面積崩所修理圖 一〃<sup>二</sup> 特九・九三八

犀川大橋々臺石垣繪圖 一〃 特九・九三九

B

土中より石垣積繪圖

写一枚

特一九・九二四〇

二之丸御居間先御土藏御石垣繩繪圖(文化五)

”一”

特一九・九二四二

門臺石垣規合等秘傳書(文化一)

後藤彦三郎筆

一通

特一九・九二四三

山の高さ等規合圖

写一枚

特一九・九二四三

石垣築根元心得之事(文化一四)

後藤彦三郎筆

一通

特一九・九二四四

石を和して細工する大秘傳之事

写一”

特一九・九二四五

石垣本高さを以矩方等秘法之事(文化一)

後藤彦三郎筆

一”

特一九・九二四六

石取並石圖

写一”

特一九・九二四七

能州銘石覺

”一”

特一九・九二四八

御鋏初式圖

”三枚

特一九・九二四九

御鋏初略記(文化二二)

”一冊

特一九・九二五〇

穴生役所之圖

後藤彦三郎筆

”一枚

特一九・九二五一

○

T19-2

14

直筆物	雜記	大槻長元之事等	御觸留	世上取沙汰之大略秘書	喧嘩取捌一卷留	三ヶ國中古城等覺	三壺聞書拔萃	萬聞書	御代々寫	拔書	御改法大略之覺等秘書	葵家極秘圖
			(享和二)	(文政三)	(天保一五)						(天明五)	
		後藤彦三郎筆			後藤忠保筆		後藤久兵衛筆			後藤和敬筆		
写一册	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五	特九・九一五

御繪圖添書 (文政一〇)

後藤彦三郎筆

一通

特九・九一五

T19-3

江都御城諸番所之道繪圖

写一枚

特九・九一六

T19-3

御屋鋪惣繪圖 (文化二二)

一枚

特九・九一七

T19-4

御家中諸士名

一册

特九・九一八

T19-4

東都御館諸士等小屋割圖

後藤忠保筆

一枚

特九・九一九

T19-4

造り噺寫

一册

特九・九二〇

T19-4

ひと世語り (天保七)

一枚

特九・九二一

T19-4

御國え公邊より御目附衆御越御用一卷 (文政一〇) 後藤彦三郎筆

一枚

特九・九二二

T19-4

加越能合圖

一枚

特九・九二三

T19-4

加越能圖 (寛政一)

一枚

特九・九二四

T19-4

小松御城之圖

一枚

特九・九二五

T19-4

愛本橋附近之圖

一枚

特九・九二六

T19-4

小松御城并町居繩

一枚

特九・九二七

T19-4



朝鮮八道之圖

○

異國船一件 (嘉永七)

異國船一件に付被仰渡之趣 (嘉永七)

海防御係より御老中へ進達之寫 (嘉永七)

異國船到來之留書 (嘉永七)

越後戰爭一卷

一二之先手人數積

四行備押轉化

城取離格問答

五戰之圖

宿城之圖 (寛政六)

奧書秘傳

宮永候嘉筆

写一枚

719-5  
↓  
特一九・九一〇

写一册

特一九・九一三

一册

特一九・九一三

一册

特一九・九一四

一綴

特一九・九一五

一册

特一九・九一六

一册

特一九・九一七

一册

特一九・九一八

一册

特一九・九一九

一折

特一九・九二〇

一枚

特一九・九二〇

一册

特一九・九二三

719-4

719-4

大坪流馬方手綱秘訣口傳之歌 (享保一五)

當射要錄 (享保七)

眞之角馬出之圖

眞之丸馬出之圖

日置流弓傳註解

加賀藩御軍役御定

源義經軍歌

種ヶ島五十ヶ條 (文久三)

歌目錄 (安政四)

河北郡戸室山開之事等留(宝曆文化)  
戸室山初年号等留帳(嘉永元年5月)

写一册

特一九・九二三

一册

特一九・九二四

一板

特一九・九二五

一册

特一九・九二六

一册

特一九・九二七

一册

特一九・九二八

一册

特一九・九二九

一卷

特一九・九三〇

一册

特一九・九三一

一册

特一九・九三三



T19  
-5

昭和三十三年二月一日印刷  
昭和三十三年二月五日發行

金沢市立図書館

印刷所 明治印刷株式会社

金沢市高岡町九十

印刷人 飯尾龍三郎